



初めて扱う工具でベンチづくりに挑戦する参加者

ベンチづくりで腕試し 技能オリンピック開催

7月22日、にぎわい土曜市が中央公園で開かれ、歌謡ショーやカラオケ大会、バルーンアートなど多彩な催しが行われました。

人気は「技能オリンピックINくすまき」。木製のボランティアベンチづくりで腕前を競い合いました。参加した13組は、商工会の工業部会員に教わりながら、ベンチ1台の組み立てから塗装までを行い、土曜大工?の楽しさを味わっていました。厳正な審査の結果、柴田勇雄さん(62歳・新町)に軍配が上がりました。

「TMOくすまき」の名前入りベンチは、ボランティアで作製した13台と合わせ、同部会員が30台を作製。完成品は、町内の公共施設などにお目見えする予定です。



「はいしたあ」。声を掛け合いながらボールを送る参加者

はつらつと老人パワー スポーツで親睦深める

恒例の老人スポーツ大会は7月5日、総合運動公園で開かれ、約400人がスポーツを通じて健康づくりと親睦を深めました。

6チームの対抗戦で、8種目の競技で熱戦が繰り広げられました。個人競技60歳競争と100歳競争の出場選手は、いずれも健脚ぞろい。短パン姿も若々しく、昔と変わらぬ走りっぷりとの評判で、会場を沸かせました。団体競技は、手を使わず2人でボールを運ぶ「一心同体」やボール送りなど6種目が行われ、和気あいあいと息の合ったチームプレーを見せました。優勝カップは、2年連続で江刈Aチームに手渡されました。

サッカーって楽しいね フェスティバルで歓声

キッズサッカーフェスティバル2006(県サッカー協会主催)は7月9日、総合運動公園で開かれました。町内や県北地区など32チーム194人が参加。6歳以下、8歳以下、10歳以下の3部門で1チーム原則5人、1ゲーム8分間のリーグ戦が行われました。ルールにこだわらず、ボールで思いっきり遊んで楽しむことが目的の1つ。参加者は、父母の声援を受けながら一生懸命ボールを追い掛け、歓声を上げていました。

フェスティバルの開催は4年目。出口忠一会長は「外遊びの体験を増やし、サッカーを通じて体力の向上や友達づくりにつなげてほしい」と話していました。



ゴール前でボールと格闘する子どもたち

清掃作業で気持ちよく 中高生がボランティア

7月21日、葛巻高校と町内の中学校が合同で地域への奉仕活動を行いました。中高一環教育の総合学習の一環として、葛巻高校全生徒157人と葛巻中2年生43人、江刈中1年生23人が参加。生徒は担当区域に分かれ、国道や町道沿いの道路標識やカーブミラーの清掃、ごみ拾いなどを行いました。

養護老人ホーム「葛葉荘」には、葛巻高校1年と葛巻中の女子生徒が訪れ、障子の張り替えやガラスふきに精を出しました。広い施設はみるみるうちにきれいになり、入所者と触れ合いながら、生徒は人の役に立つことの喜びを感じていました。



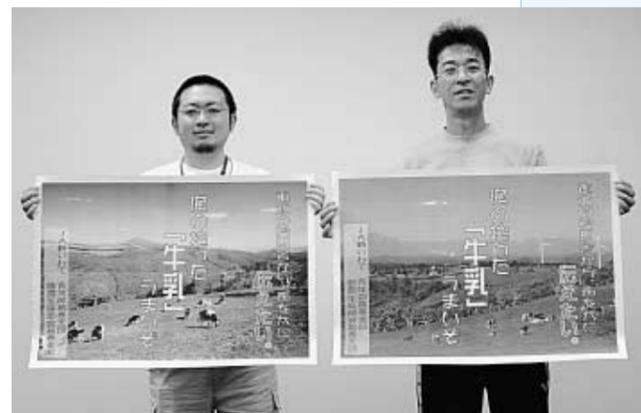
葛葉荘入所者と一緒に障子張りをする高校生

牛乳の消費拡大に期待 酪農家がポスター作製

「東北の片田舎から、声を大に伝えたい。俺の搾った牛乳うまいぞ」。酪農家の自信と意気込みが伝わるキャッチコピーで、JA新しいわて青年部葛巻支部(樋ノ口康支部長、会員50人)がポスターを作製しました。

大きさは縦50センチ、横75センチ。光沢紙にカラープリンターで印刷した手作りポスターで、当面30枚を印刷。袖山高原の2種類の景色を背景に、青年部と酪農生産部会葛巻支部の名前が左側に入っています。

樋ノ口支部長は「牛乳の消費拡大と酪農の町をPRし、町の活性化につなげていきたい」とポスター効果に期待を込めていました。



町内外の公共施設やJR沼宮内駅などに掲示予定のポスター。青年部が整備した小屋瀬地区の花壇にも看板を設置しました



普段の話言葉に「です、ます」を付ければ丁寧語。参加者に言葉遣いを指導する講師の前田正二さん

おもてなしは笑顔から 心をつかむ接客マナー

顧客の満足度を高めるための接客マナー講習会(町商工会主催)は7月26日、IBCアナウンサー学院の前田正二副学院長を講師に迎え、ふれあい宿舎グリーンテージで開かれました。

町内の商工業者ら80人が参加し、接客の基本となる話し方のコツや心構えを学びました。

「明るく、正しく、分かりやすく」が会話の3原則。その人が普段使っている言葉を丁寧に話すことや話は問のとり方が大切であること。何よりも接客は笑顔に始まり、相手の話を心から聴くことはお店の大事なサービスであることなどを指導していました。